TOHOKU UNIVERSITY IRIDeS 東北大学災害科学国際研究所

カフラマンマラシュ地震の学校防災教育に関する調査研究プロジェクトを開始しました

（2023/9/21～28）

テーマ：カフラマンマラシュ地震、学校教育、学校防災教育
会　場：中東工科大学（アンカラ）、ガジアンテップや周辺の被災地の学校・仮設住宅エリア等
ＵＲＬ：https://www.jst.go.jp/pr/info/info1635/index.html

科学技術振興機構（JST）による、カフラマンマラシュ（トルコ南東部）地震関連「国際緊急共同研究・調査支援プログラム（J-RAPID）」では、当研究所から災害アーカイブ関係および防災教育関係の二件の課題が採択されました（冒頭 URL）。後者の「カフラマンマラシュ地震の学校・子どもへの影響および防災教育状況の調査」（日本側代表者：福島洋准教授（陸域地震学・火山学研究分野）、トルコ側代表者：ジャナイ・ドウル助教（トルコ教育協会大学））については、2023 年９月 21 日（木）～28 日（木）、研究分担者の桜井愛子クロスアポイントメント教授（防災教育実践学分野）、小田隆史准教授（東京大学）、齋藤玲助教（認知科学研究分野）がトルコを訪問し、プロジェクトのキックオフ・ミーティング、被災地の学校・仮設住宅エリアの調査などを行いました。被災地の調査は、アジア防災センターの調査団と合同で実施しました。

プロジェクトのキックオフ・ミーティングでは、今後の調査研究の方向性の確認のほか、東日本大震災後の石巻市における復興マップづくり事例の共有等を含め、有意義な意見交換を行うことができました。

被災地３県（ガディアンテッィプ、カフラマンマラシュ、ハタイ）の学校や仮設住宅エリアなどの視察では、災害発生時から現在にかけて、学校教育を再開するために、学校の先生方がどのようなチャレンジに直面し、それらをいかに克服してきたか、またどのような工夫を実行してきたかについて聞きました。被害が特に大きかった地域では、いまだに残る破壊された建物、山積された瓦礫群を目の当たりにしました。ハタイ県では現地の Mustafa Kemal 大学でミニワークショップが開催され、震災復興に携わる多様なステークホルダーの参加の下、大震災後のサバイバーである子どもたちへの教育アプローチについて東日本大震災の経験を共有し、トルコの被災地での今後の地震防災教育のあり方について活発な意見交換が行われました。

プロジェクトの日本側メンバーは、東日本大震災発災直後から、宮城県内の学校との交流や連携実践活動等を行ってきました。カフラマンマラシュ地震後、さまざまな言葉にならない思いや気持ちを抱えつつも、学校という空間のなかで、あたりまえに自らの役割を全うしている学校の先生や子どもたちの姿に、東日本大震災後の被災地に暮らす学校の先生と子どもたちが重ね合わされました。

東日本大震災後の 12 年という月日のあいだ、学校防災教育の充実に向けて積み上げられてきた経験と教訓を今後のトルコの学校教育の復旧・復興、学校防災教育の充実に活かしていくために、調査研究や実践活動を進めていきます。

文責：齋藤　玲（認知科学研究分野）、
福島　洋（陸域地震学・火山学研究分野）、
桜井愛子（防災教育実践学分野）

（次頁へつづく）

カフラマンマラシュ市内の様子

仮設の心理社会支援センターの外観

心理社会支援センター内で訪問団が
説明を受ける様子

仮説住宅エリアにスクールバスで帰宅した
子どもたち

被災地の高等学校にてあいさつをするプロジェクトメンバー